資料

日本の獣医系大学における疫学教育の現状

林谷秀樹^{1*}・岡谷アレシヤンドレ友三²¹ 東京農工大学大学院² 麻布大学獣医学部Current Status of Education for Veterinary Epidemiology
in Japanese Veterinary SchoolHideki HAYASHIDANI¹ and Alexandre Tomomitsu OKATANI²¹ Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology² School of Veterinary Medicine, Azabu University

1. これまでの経緯

1997年に獣医疫学会が産声を上げてから、本学会がまず取り組んできたことは、獣医学とその関連領域における（獣医）疫学の発展と普及を目的とした啓蒙活動であった。特に、発足当時、獣医系大学で（獣医）疫学の講義を独立した科目として行なっていた大学はわずかに3大学しかなく、獣医学教育の中で疫学という科目を独立の科目として認知してもらうことが最も重要な活動の一つであった。もちろん、当時も獣医学教育の中で疫学の教育は行なわれていなかった訳でなく、公衆衛生学、獣医衛生学および獣医伝染病学といった応用獣医学分野などの講義の中で、疫学はこれらの学問を支える方法論として位置づけられ、教育は行われてきた。しかし、応用獣医学に関する教育の中では、それぞれの科目で必要な疫学の内容が断片的に取り出された形で教育が行われてきたため、疫学教育としては十分に体系づけられておらず、応用獣医学分野以外の分野、たとえば臨床疫学などの疫学はほとんど教育されることはなかった。このような背景のもと、本学会では、（獣医）疫学を獣医学教育の中で認知してもらうため、まず、2005年に学会の総力を結集して、獣医疫学の教科書「獣医疫学」を出版し、（獣医）疫学を体系的にまとめるとともに、大学教育の中で疫学を教える際の入門書として活用してもら

えるよう啓蒙活動を行なった。さらに、2007年には（獣医）疫学教育のモデルとなるカリキュラムを本学会が提言した。2011年には、全国大学獣医学関係代表者協議会が中心となって、獣医学生が卒業までに身につけるべき最低限の修得内容を示した、「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」が策定され、これまでの努力が実を結び、この中で疫学が獣医学教育の中で応用獣医学教育分野（8科目）の中で独立した1科目として選定された。これに伴い、獣医疫学会では、2011年に他教科に先駆けて獣医学分野では初めてコア・カリキュラム準拠の教科書「獣医疫学—基礎から応用まで—第2版」を出版した。その後、2016年に始まった獣医学共用試験（vetCBT・vetOSCE）のvetCBTにおいても、（獣医）疫学はその出題科目の1つとなっている。

2. 我が国の獣医系大学における
（獣医）疫学の講義の実施状況

我が国の国公立の獣医系15大学における（獣医）疫学の講義の実施状況について、2008年に行なった調査³⁾では、（獣医）疫学を単独の科目として開講している大学はわずかに5大学で、それ以外の10大学は、公衆衛生学や獣医衛生学などの科目の中で（獣医）疫学を教えていた。2011年に「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」が策定され、（獣医）疫学が正式に応用獣医学分野の独立した1科目となったことを受けて、各獣医系大学はカリキュラム改訂時に（獣医）疫学を独立した科目として採用するようになってきていることから、2016年に改めて実態調

連絡先：林谷秀樹*

東京農工大学大学院農学研究科動物生命科学部門
〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8
E-mail: eisei@cc.tuat.ac.jp

表 1 日本の獣医系大学における（獣医）疫学講義の実施状況

講義形態	2008 年		2016 年		
	大学数	大学数	専任・非常勤		
			専任	専任 + 非常勤	非常勤
1 （獣医）疫学を単独で開講	5*	13*	9	3	1
2 獣医衛生学または公衆衛生学等の中で実施	10	2	2		
a. 公衆衛生学	5	1	1		
b. 獣医衛生学	1				
c. 獣医伝染病学	1				
d. 公衆衛生学 + 獣医衛生学	1	1	1		
e. 公衆衛生学 + 獣医伝染病学	1				
f. 公衆衛生学 + 獣医衛生学 + 獣医伝染病学	1				

* いずれも必修科目として実施

表 2 日本の獣医系大学における（獣医）疫学演習（実習）の実施状況

演習形態	大学数
（獣医）疫学に関する演習（実習）を実施していない	11
（獣医）疫学に関する演習（実習）を実施している	4*

* いずれも必修科目として実施

査を行なった。その結果、2016年には獣医系大学15大学中13大学と、2校を除くほとんどの大学が（獣医）疫学を独立した科目として教育していた（表1）。そして、13大学のいずれも（獣医）疫学を必修科目として定めており、講義単位も2単位（90分授業で15回）程度教えていることが判明した。また、（獣医）疫学を教えている教員も9大学が専任教員であり、専任と非常勤と答えた3大学を加えると、実に12大学に（獣医）疫学を教える専任の教員がいることになる。この調査結果は、（獣医）疫学が獣医学教育の中で確固たる地位を固めつつあることを示しており、獣医学とその関連領域における（獣医）疫学の発展と普及という本学会設立の目的は、学会設立20年を得て、ようやく大学教育において達成しつつある。

3. 我が国の獣医系大学における（獣医）疫学の演習（実習）の実施状況

（獣医）疫学は、予防獣医学を实践する実学であり、（獣医）疫学の教育には疫学の理論だけでなく、その理論を現場で応用できるような（獣医）疫学の演習や実習のような実践教育が必須と考えられるが、“獣医学モデル・コア・カリキュラム”においては、疫学演習（実習）に関するコ

ア・カリキュラムは策定されておらず、（獣医）疫学が獣医学教育の中でしっかり根付いてきた現在、本学会の次の目標は（獣医）疫学演習（実習）に関するコア・カリキュラムの策定と大学教育における実践であろう。一部の大学ではすでに（獣医）疫学演習を実施している大学もあることから、今回の調査ではその実態を調べた。その結果、獣医系大学15大学中4大学がすでに獣医疫学演習という科目名で、いずれも必修科目として（獣医）疫学の演習を実施していることが判明した（表2）。またその単位数はおおむね1単位（15回）かそれ未満であった。まだ、“獣医学モデル・コア・カリキュラム”の中に（獣医）疫学演習（実習）が策定されていない中、すでに一部の大学では獣医疫学の演習科目が獣医学教育の中に取り入れられ、実施されていることは、今後学会が（獣医）疫学演習を獣医学教育に必須の科目として取り入れていく活動を推進していく上で、大きな力を与えるものであり、これら大学の関係者の方々の先見性とその努力に敬意を表したい。

4. 今後の獣医疫学の実践教育の推進

今後の（獣医）疫学教育のあるべき姿については、すでに（獣医）疫学の講義は、我が国の獣医学教育の中にしっ

かりと定着してきたことから、次は大学教育の中に（獣医）疫学演習（実習）を新しい科目として打ち立てていくよう本学会として推進していく必要がある。上述したように、いくつかの大学がその先鞭をつけているので、すでに獣医疫学演習を実施している大学に所属する本学会の理事・幹事が中心になって、現在、（獣医）疫学演習（実習）のコア・カリキュラムを策定中である。しかし、（獣医）演習（実習）を大学の新しい科目として打ち立てることは、大学によってはすぐには困難と思われるので、現在、全国大学獣医学関係代表者協議会、日本獣医師会、NOSAI 全国などが「獣医学臨床教育推進機構（仮称）」を設置して、参加型臨床実習/公衆衛生・家畜衛生関連アドバンスト実習等について検討を始めていることから、公衆衛生・家畜衛生関連アドバンスト実習の中で、（獣医）疫学演習を行なえるよう、これらに対応したカリキュラムを整備していくことも必要となろう。また、第 33 回獣医疫学会学術集会でのシンポジウム⁴⁾でも取り上げたように、現在、国立感染症研究所の実地疫学専門家養成コース（FETP）や動

物衛生研究所の獣医疫学特殊講習会、岡山大と岡山理科大とで実施している食中毒疫学研修会などが、（獣医）疫学に関する卒後の実践教育としてすでに継続的に実施されている。このような卒後教育も（獣医）疫学の実践教育の中にどのように位置付けて活用していけばよいかなどについて、今後関係者の活発な議論が期待される。

参考文献

- 1) 林谷秀樹：獣医疫学教育のカリキュラムについて．獣医疫学雑誌，**10**，99-101，2007.
- 2) 全国大学獣医学関係代表者協議会：獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成 24 年度版，近代出版，東京，2012.
- 3) 林谷秀樹：日本における獣医疫学教育の現状．獣医疫学雑誌，**13**，4-7，2009.
- 4) 林谷秀樹：獣医疫学の実践教育の必要性．獣医疫学雑誌，**16**，97-99，2012.